慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	幸田成友著 大塩平八郎
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.3, No.4 (1910. 4) ,p.502(136)- 504(138)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19100415-0136

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

大なる遺憾に遭遇せざるを得ざりき。六月六日大星終に落つ、噫、伊太利の建設者カミロ　カヴールは熱に惱まされたる腦裡に羅馬問題を描きつゝ、囈語尙ほ"Libera chiro in libera Stato,,を叫びつゝ、五十一年の命數盡きて靜に眠を眠むれるなりき。三月二十五日伊太利議會に於てなしたる羅馬遷都論尙ほ國民の耳に新たなるに、彼は已に冷き骸と化したるなり。彼死すと雖も、彼れが名は長へに伊太利國民の胸に生きん。

吾人は玆に長き彼が後半生の歷史を了る。

新著紹介

大鹽平八郎

幸田成友著

阿部秀助

大阪は著者の云へるが如く、天下の臺所なり、而して此臺所に於ける市政の腐敗は今に始まれるにあらず、既に德川時代に存す、當時に於て直接市民に關係して、最も重要なる地位にありしものは東西の町奉行にして、其配下に東面各々三十騎の與力と、東西各々五十人の同心あり、而して此六十騎の與力と百人の同志とは、此地に於ける只一の武士階級として市民の眼に映ずる一團なるを以て、彼等は御無理御尤として其意を迎ふるに汲汲たる結果、與力の如きは其高二百石卽ち八十石の實收なるに不拘、其實二千石位の生活を營めり之れ皆な彼等が自己の權威を恃んで私曲を弄せるに外ならず、加ふるに當時に於ける厚葬の風は寺

院をして有福ならしめ、多くの圓顱をして俗人より遙かに下劣ならしめ、甚しきは色を漁し、肉を喰ひしを以て、町奉行よりも屢々令して彼等の破戒を誡め、學業德行の成就を奬勵せしに不拘、彼等には本寺あり、觸頭ありて、容易に奉行所より手を入れ難く、斯くて僧侶の腐敗は益々甚しく所謂、坊主頭を頭巾に隱して、狹斜の巷に出入し或は裁縫洗濯のためと稱して寺內に婦女子を引入れ、就中、北野のかくし寺の如き其住持は狸を使ひ、美貌の婦人ある際は、それに狸を憑らせ、加持祈禱に托して、其寺內に誘ひ以て淫慾を恣にせしが如きあり、更に當時に於ける富豪の狀態を見るに、彼等の或者は十人兩替となつて三鄕全體の兩替屋を取締り、或者は御用融方と爲つて政府の官金を預り、或者は諸藩藏屋敷の藏元と爲つて其藩の產物卽ち藏物(主として米)の販賣一切を掌り又た或者は掛屋となつて一方には藏物販賣の代金を預り、一方には月々江戶屋敷の入用金を仕送る等、隱然として天下の金櫃を握れり、而して彼等の間に金談ある際には、必ず對手方を馴染の揚屋又は茶屋に招き、酒池肉林の豪奢を極め、之を振舞と稱せり、斯の如きは實に天保前後に於ける大阪市の腐敗せる狀態にして、此狀態に向て革新の空氣を入れんとを務めしものを大鹽平八郎となす。

彼は此腐敗せる狀態を充分觀察し得べき天滿與力の職にあること前後殆んど十五年、其間淸廉潔白敢行邁往公吏としての彼が三大功績は、文政十年より三年を費して落着せし耶蘇敎徒逮捕一件、同十二年三月に於ける奸吏糺彈一件、同十三年三月に於ける破戒僧侶遠島一件にして、彼自身の語を借りて云へば「職は則ち微賤にして、而も言聽かれ計從はる、大政に關り、衞藏を除き、民害を鋤き、僧風を規す、豈に千歲の一遇にあらずや」とあるもの卽ち之れなり、然かも彼れを信任せし町奉行高井山城守は天保元年七月を以て職を辭するに至りしかば、彼れも亦た之れと進退を共にし隱居して其家督を養子格之助に讓り、「昨夜閑窓夢始醒、今朝心地似二僊家一、誰知未了之三素交者一、秋蕪

東潔白花」の詩を詠じて專ら講説著述の儒者的生活に入れり、之れ彼が生涯の一轉化にして、更に再轉化に於て彼は既に悲劇の人となれり、蓋、當時に於ける關東の學者が徒らに朱學の範圍内に跼蹐として、一生を四書五經の註解に終るに反して彼の講義は活きて働かすを本意となし、時に經書の本文と時世とを比較し、老中誰殿が箇樣の處置は論語の趣意と矛盾するとか、城代誰殿のかくあるは此孟子の語に相違すと云ふ風に批評を加ふるにあり、斯くて此實世間を忘るゝと能はざる活學者は、時世の益々非なるを見て、一朝同志を語ひ白刃長槍を携へ、火を放ち銃を發し、市街を横行して捕手の人數に抵抗せしかば、遂に亂魁の二字を空しく史上に殘すに至れり彼が殊に最期に至るは吾人をして漫に演劇上の興味を感せしむるものあり。

「捕手の面々は搦手の固つきたりと見るや、一同美吉屋宅へ乗込んだ、鉄平は彦次郎から見世の出口を固めてくれといはれ、一人にて少々心細く思つて居る所へ、同役岡村桂藏が密に跡を慕つて來たので、これ幸と桂藏に一緒に居て貰つた、五郎兵衛の女房は同心から謀を授けられ、吃驚しながら、鬼に角一同の先に立つて庭口に入り、もしくと聲を聽くるや、小路次を明けて姿を現はしたは平八郎其人である、彼は捕方の姿を見るやハタと戸を建寄せた、鵜差のみが見える、捕方は一足進んだ、平八郎とも言はるゝ者畢怯なりといふ小右衛門の聲に應じ、唯今彌出るとの返事があつた、入口の鉄平は同僚の路次口に詰寄せたるを見て、最早表口に待つ要なしと、小路次を潛り、半襟振上げ正面の戸を叩けば、隙間より吹出しは焔硝の煙である、小右衛門、彌六、縫藏一同躍り込み、瞬時の内に戸障子を破つて屹度見渡せば、正面障子の中に人の臥姿がある、之には衣類障子等を立掛け、既に充分火が廻つて居る、平八郎は鵜差を携へて壁際にそんで居るが、火の爲に近寄れない、アハヤといふ間に、彼は鵜差を取直して咽喉を横に突立て、引抜いて投げた火は盛に燃上り、一同は我先と路次口へ逃出した、搦手の人數は中央に逃路を開き、兩側に並んで待つて居つたが、餘に手間取れるので、讃太郎、勇之助、正五郎三人戸口へ來て透見をすると、炎の中に坊主頭がチラくと見える、扨は父子自滅と一同進んで漸く戸口を打壞し、責て死骸なりと引出したしと苛つたが、最早火氣熾にして如何とも仕難く、彦次郎の言葉に從ひ、火消人足に任せて引下つた」（頁三三七——三三九）

之を要するに、本書は史料を蒐集せる點に於て、只に前人の著に數歩を進めたるのみならず又鑑別取捨、分配綜合の諸點に就きても殆んど完璧に近く、近時史界の好著として切に江湖の一讀を乞ふ。

前號（第參卷第參號）目次

論説

勞働取引所論　堀江歸一
耕地整理の方針に對する一疑議（其二、完）　氣賀勘重
上總介忠輝（其五、完）　阿部秀助
女王ヴイクトリヤとパーメルストン林　毅陸
最近の土地所有法改良運動　星野勉三

雜錄

海外經濟事情要報　堀江歸一
英國憲法上の危機　小倉和市
實際經濟政策に對する經濟學の意義　小泉信三
米國中央銀行設立問題（其二、完）　松田暢

新著紹介

ゴーダイン氏獨逸保護關税影響論　堀江歸一
アッシユレー氏註ミル氏經濟原論　堀江歸一

次號（第參卷第五號）豫告

論説

直價考　福田德三
英國の銀行準備金問題（其二）　堀江歸一
論題未定　氣賀勘重
論題未定　田中一貞
論題未定　堀切善兵衛

雜錄

一千八百〇二年の英國工場法　高橋誠一郎
教育史上の自然主義（其二）　石田新太郎
遊戯の説（其二）　澤木四方吉
ギルケ教授の獨逸憲法論　小倉和市